

新技術・生産性も評価

2019年度 利根川下流河川事務所 優良工事等表彰

魅力ある現場実現へ

利根川下流河川事務所は7月15日、2019年度優良工事等事務所長表彰の対象を発表した。表彰対象は▽優良工事3件▽優良下請け企業・優秀下請け技術者2件・2人▽難工事功勞4件▽建設業担い手確保・育成貢献工事4件▽新技術活用・生産性等向上工事表彰4件▽優良業務・優秀技術者3件・3人▽河川工事(河川・ダム・砂防)「ナマ」現場写真コンテスト2件となった。

大谷悟事務所長は受賞者に対してコメントを贈り、「国土交通省では、i-Constructionの推進等により、建設業および建設関連業全体の生産性向上を図り、魅力ある建設現場の実現に取り組んでいきたいと考えている。今回の表彰においては、これらの事項も考慮させていた」とした上で、事務所の事業への理解・協力と合わせて引き続きの推進を求めた。

表彰は、前年度に完成・完了した工事・業務の中から、特に優れた成績を収めた工事・業務・技術者などをたたえるもの。今回の表彰対象は工事31件、業務39件の中から選ばれた。

新技術活用・生産性等向上工事表彰制度は19年11月の新設で、19年度完成工事から適用されている。新技術や3次元データなどの活用により生産性・品質・安全性等の向上を図る取り組みが優れた工事を表彰するもの。受賞者は事務所が総合評価落札方式で発注する工事において、技術力評価が優位になる。



大谷悟 利根川下流河川事務所長コメント

この度は、優良工事表彰を受賞されましたこと、心よりお祝い申し上げます。

国土交通省では、週休2日の普及・拡大をはじめとする働き方改革、測量、調査から設計、施工、維持管理に至るまでの建設生産・管理システム全体での3次元データの活用、ICTをはじめとする

新技術の活用を行う「i-Construction」の推進等により、建設業および建設関連業全体の生産性向上を図り、魅力ある建設現場の実現に取り組んでまいりたいと考えております。今回の表彰におきましては、これらの事項も考慮させていただきます。これらの施策の推進につ

難工事功勞

日進建設株式会社

【工事名】H30・31北千葉管内維持工事
【工期】2018年4月1日～20年3月31日
【工事概要】北千葉導水路管理支所管理区域において、2か年にわたり、河川管理に必要となる堤防除草や軽微な維持修繕を行った。19年度は出水対応が多くなり、利根川の水位低下から1週間程度で樋管周辺の流木・汚泥処理、また民家隣接部の法崩れ対応で迅速かつ丁寧に対応した。これらの緊急対応により、当初の契約数量から大



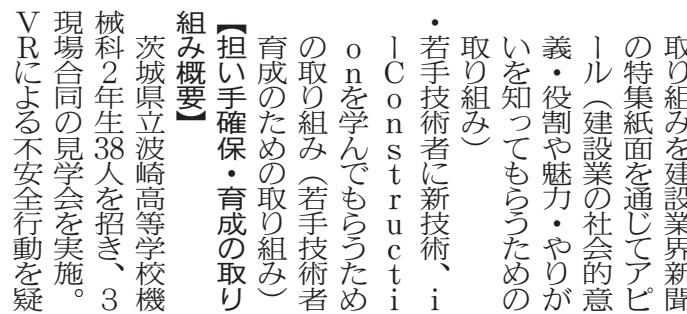
きく変更となったが、監理技術者は設計内容や現地地照査を迅速かつ的確に行

似体験してもらった。県立我孫子東高等学校1年生1人をインターンシップとして現場に受け入れた。測量業務や軽微な土木作業を経験してもらったほか、建設業界における働き方改革や週休2日制の取り組みを説明した。

建設業担い手確保・育成貢献工事

東邦建設株式会社

【工事名】R1利根川左岸右津築堤工事
【工期】2018年4月1日～20年3月31日
【工事概要】北千葉導水路管理支所管理区域において、2か年にわたり、河川管理に必要となる堤防除草や軽微な維持修繕を行った。19年度は出水対応が多くなり、利根川の水位低下から1週間程度で樋管周辺の流木・汚泥処理、また民家隣接部の法崩れ対応で迅速かつ丁寧に対応した。これらの緊急対応により、当初の契約数量から大



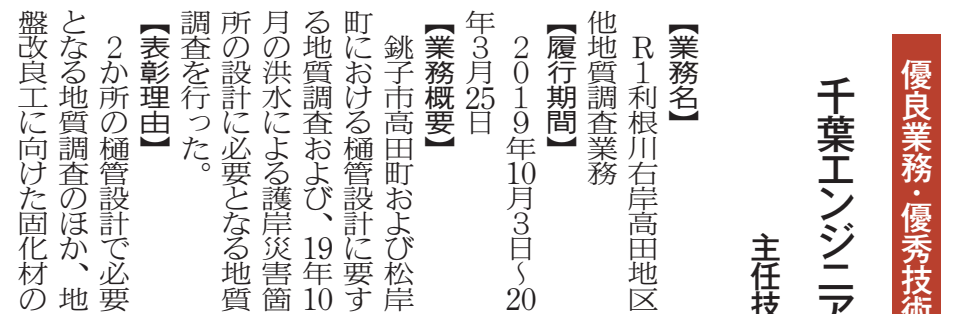
インターンシップで学生を受け入れ

若手技術者2人に、i-Constructionの施工管理を学んでもらった。現場代理人(27歳)に全般を経験させたほか、担当技術者(21歳)にはICT施工を見せ、身近に感じられるよう促した。

建設業担い手確保・育成貢献工事

古谷建設株式会社

【工事名】R1利根川左岸東海築堤工事
【担い手確保・育成の取り組み項目】学生に対する現場見学会の実施(建設業界への入職のきっかけづくりとなる取り組み)
【担い手確保・育成の取り組み概要】建設業界の未来像をイメージできるよう「UAVからICT建機による施工までの流れ」について講習を行った。



現場見学会での集合写真

講習会の様子

優良業務・優秀技術者

千葉エンジニアリング株式会社

【業務名】R1利根川右岸高田地区他地質調査業務
【履行期間】2019年10月3日～20年3月25日
【業務概要】銚子市高田町および松岸町における樋管設計に要する地質調査および、19年10月の洪水による護岸災害箇所設計に必要となる地質調査を行った。

【表彰理由】2か所の樋管設計で必要となる地質調査のほか、地盤改良工に向けた固化材の

配合強度試験を実施。調査結果の照査については、同社独自の体制により入念に行なった。

また、19年10月の台風19号に伴う洪水による護岸災害箇所の追加調査において、班数の増設やボーリングマシンの確保などに前向きかつ積極的に取り組み、調査の実施にあたって遅れることなく高い業務遂行能力を発揮した。

調査方法などに関して積極的に提案し、調査結果等の成果品の品質も優れていた。

知識 経験 業で街造り

日進建設株式会社

代表取締役 小宮山 俊雄

〒277-0862 柏市篠籠田 1458-12
TEL: 04-7144-0017 FAX: 04-7146-0738

総合建設業・がれき類中間処理業

東邦建設株式会社

代表取締役 宮村 亮祐

〒286-0133 成田市吉倉 150-18
TEL: 0476-22-7301 FAX: 0476-22-7304
URL: http://www.toho-const.co.jp/

代表取締役 古谷 務

〒289-1733 山武郡横芝光町栗山 3195-1
TEL: 0479-82-3311 FAX: 0479-82-3314
URL: http://www.furuya-con.co.jp/

自社マシンと自社試験室で、土に関するすべての業務を完結

千葉エンジニアリング株式会社

代表取締役 番場 弘和

〒261-0005 千葉市美浜区稲毛海岸 2-1-31
TEL: 043-244-2311 FAX: 043-244-4711
URL: http://www.chiba-eng.co.jp/